

## 「新型コロナ危機」が誘引する「社会主義への移行」

2020.4.17 TaK

### <1.資本主義の「偉大な文明化作用」の、恩恵・実力>

★資本主義は時の労働者階級には「地獄」だが、歴史的には、「物質的生産と人間の諸個人の社会的能力及び社会的欲望を爆発的に拡大させるという歴史的任務」を負っており、社会主義への客観的諸条件を産み出す、という一側面を持つ。いわゆる「偉大な文明化作用」。

20世紀社会主義には全て、この条件が欠けていたが、現代先進諸国はこの段階にある。

①3月・4月の国内総生産(GDP)は20%~30%程度は低下したのだろう。(別添資料)「中小・零細の倒産増加」は避けられないし、「首切り・派遣解除・自宅待機・時間減少」で、労働者収入は途絶・減少する。でも、「本当に餓死する者はいない」のだろう。「収入」のことを考えないとすれば、ライフラインは全く問題なく稼働し、全国のスーパーにはいまだに捨てるほど十分な商品があふれ、もし1年自粛がつづいても、この状態は維持できるのだろう。

つまり、「日本の生産力」は、3割(たぶんもっと)「遊休」しても、国民生活に大きな影響が出ない(社会的欲望の一部だけ制限される)水準に発展している、ということである。これは反面で、資本主義の歴史的成果、功績である。具体的には、「国民の必要消費財以外の生産」の方が、圧倒的に多い、ということである。これが発展途上国なら、確実にかなりの国民が死ぬだろう。

②激減している「3割の遊休」とは、「3割は過剰」ということに等しい。生産力の「過剰分」を国民が自由に使えれば、もっとはるかに「人間らしい生活」が、すぐ実現できる。資本がやっている生産活動の3割は「ムダ」に使われ、資本に使われている3割の労働時間もムダな労働時間として使われている。「労働時間を明日から3割削減・週休3日」にしても、国民の生存のための消費財は全く不足せず、今のまま維持できる条件があるということだ。

### <2.先進資本主義の「危機」は、自然発生的に「社会主義への移行」を促す>

★この危機で、「生産は必要なものだけ最低限まで休業させ、生活困難な国民には現金給付すればよい」という主張が、公然と正論として語られている。付随的には「利子・家賃・地代の支払停止」まで

出てきている。これは、早い話、社会主義の主張である。

①「最低限の生産」とは「国民の現実的生活に必要な生産」という意味、「現金給付」は、「国民の現実的生活に必要な消費」という意味である。この主張は、給付される「現金」に媒介されていることを除けば、「国民の現実的生活に必要な分だけ生産して、国民に直接分配しろ」と言っているのだ。

②さらにはその間、「労働時間は短縮してよい」、「自分の自由時間で使いなさい」と。これは、「社会的な必要生産物の共同生産と共同消費」、「労働時間の短縮」という社会主義の基本原則とほとんど一緒である。

③ただまだ、「貨幣媒介による交換」が残るため、資本に「利潤」が残ること、が限界だが。これで、必要生産物の「必要量が無償でもらえるベーシックサービス」になれば、利潤は締め出され、形式的には最低限の社会主義システムが整う。

④ただ、そうした「最低限の社会主義」は、私達が目指す目標ではないのも確か。それは、どちらかと言えば「20世紀社会主義」が実現したものに近い。目標は、その先にある。

⑤「これからの社会主義」は、政府ではなく、「生産者(労働者)組織」が、必要生産物を判断して、休業業種と生産業種の指示を出す。休業業種の生産者は、「生産業種の必要労働時間を分担」して、「全員の労働時間を短縮」し「全員の自由時間を開放」する。また他方で、解放される自由時間の一部を、「増加し続ける全員の自由時間を充たす追加生産物の生産」と「必要労働時間をさらに短縮する生産手段開発」のために、「剰余労働時間」として使用する。結果として、国民の現実的生活の豊かさと自由時間は、同時に急速に増大する。つまり、「経済を真に国民の現実生活のために使う」ことが、経済成長と国民の豊かさを実現する唯一の方法、になる。それは有史以来、人間が目指していた、最終的な「経済」の姿である。

★「よく考えれば、新型コロナの以前から、ずっと自分の生活はつらくて危機的だった。この危機対策を、ずっと継続してやればよい。」、と多くの国民が気付いてほしい。

<資料> ロイター・4月企業調査より

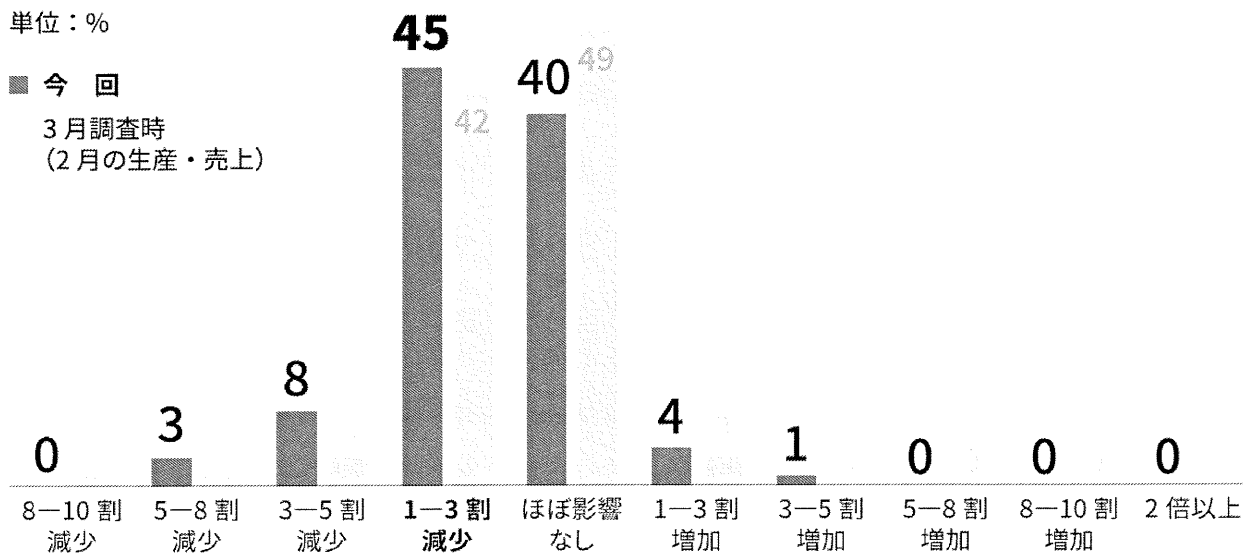
新型コロナウイルス関連で3月中の生産や売上は、前年比でどの程度影響を受けましたか。

229 社回答

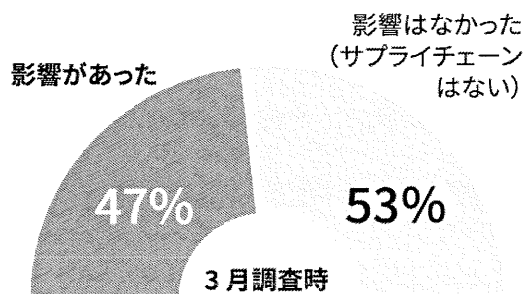
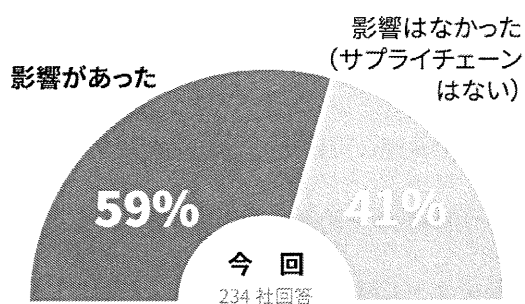
単位：%

■ 今回

3月調査時  
(2月の生産・売上)

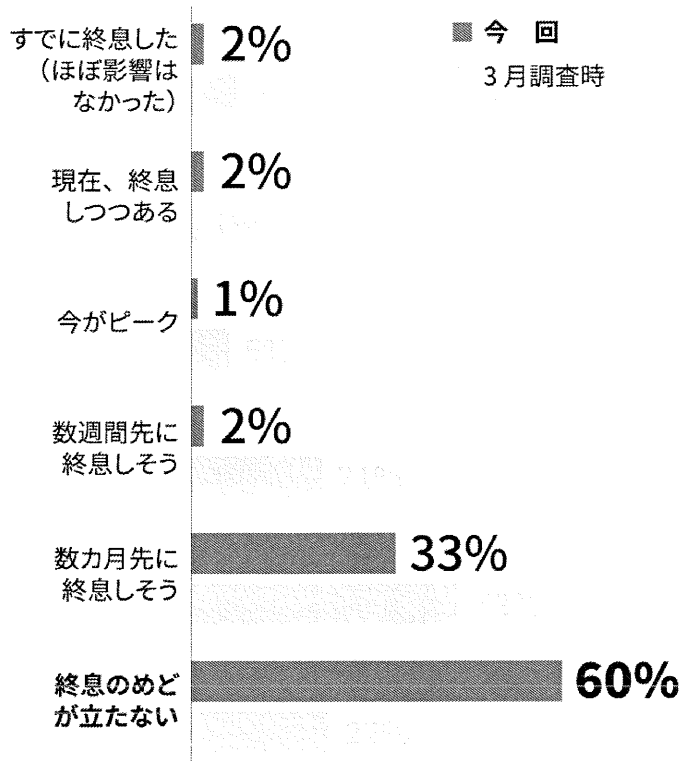


新型コロナウイルス関連でこれまでにサプライチェーンになんらかの影響がありましたか。



新型コロナウイルス関連で需要・供給面での事業への影響が終息する時期はいつ頃とみていますか。

232 社回答



### <3.「新型コロナウイルス」と唯物史観>

★唯物史観は、人間に対する「抑圧的力」を、「2種類」規定している。①「自然からの抑圧」、と、②「社会からの抑圧」=階級社会である。人間が歴史を持つのは、①「自然からの抑圧」から自由になろうとするためであり、さらに実際にその能力を持っているからである。

その他の自然存在は、「自然に抑圧されたまま」総体として「自然史」を形成する。結果、「自然」と「人間」の2つだけが「歴史を作る」ことになる。しかし、そうは言っても、「人間」は自然の内部でしかそれを行うことができないから、「自然史」は「人間の歴史」を含んでいる。それでも、人間の歴史が特異なものとして自然史から区別されるのは、「自然に存在しないものを創造し発展させる」からである。

人間は「自然からの抑圧」から解放される手段・方法を、自然発生的な「社会」を基礎に発展させ歴史を作るが、その方法は「大部分・多数の人間が『社会からの抑圧』を受る階級社会」というやり方で行えなかったため、人間の解放は、「2つの抑圧」からの解放を目指すことになる。

「社会主義」は、資本主義という「最後の階級社会」を廃止し、②「社会からの抑圧」から解放されることを意味する。しかし、①「自然からの抑圧」は「一部」しか克服できない。

★「自然からの抑圧」からの解放のために、まず人間が最優先していることが「欲望の充足」「消費」である。そのため、「最低限の欲望」である衣食住という消費のための、「物質的生産」「経済」が最重要の社会的基礎として、「下部構造」として社会を規定することになる。

他方で忘れてならないことは、「自然からの抑圧」は、「衣食住」や「人間の欲望」という狭い枠だけにとどまらない、もっと広汎な範囲を持っているということである。

社会主義段階で人間はまず「最低限の欲望」=「生存権」を「実現」し、その部分での自然からの抑圧からは解放される。共産主義段階でははるか先の「社会的欲望」=「会的欲望」を「充足」する。そこで、「唯物史観も終了」する。

だが、「自然からの抑圧」はまだまだ大きなものが残っている。例えば、「太陽系死滅・地球の自然の死滅」のような問題である。共産主義社会の人間たちはそうした自然と闘い続けることになるだろ

うが、そこでは「唯物史観とは異なる歴史」が刻まれていくのだろう。

★この間の「地震・津波・集中豪雨・河川氾濫・新型コロナ」の発生は、①「自然からの抑圧」である。「恐慌・戦争・原発崩壊」等の、②「社会からの抑圧」とは全く異なる「抑圧」である。しかし、「抑圧の原因」が社会的なものではないとしても、「問題への対処」は「抑圧された階級社会」を通じてしか行えない。だから、「社会の対処方法に階級制が現れる」ことになる。

性